

都市再生整備計画 事後評価シート

一乗寺地区

平成29年3月

京都府京都市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	京都府		市町村名	京都市		地区名	一乗寺地区		面積	66.8ha			
交付期間	平成24年度～平成28年度		事後評価実施時期	平成28年度		交付対象事業費	299百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	調整池整備事業、防災倉庫整備事業、情報板設置事業									
	当初計画から削除した事業		提案事業	事業効果分析、水害防災パンフレット作成、水害勉強会の開催									
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	新たに追加した事業		基幹事業	備蓄倉庫整備事業	平成27年に計画変更して削除 備蓄倉庫を新設する予定であった修学院中学校及び修学院第二小学校について、京都市備蓄計画に基づき、空き教室を活用した備蓄を行うこととなったため、備蓄倉庫が不要となった。			影響なし					
			提案事業	なし									
交付期間の変更		当初	平成24年度～平成28年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
		変更											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	浸水被害想定額	百万円	1,069	H24	0	H28		0	○	あり なし	調整池整備事業により、10年に1度(約50mm/h)の降雨への浸水被害対策が完了したため。	
	指標2	水害に対する対応力の充実度	%	40	H24	50	H28		58	○	あり なし	調整池整備、水害勉強会の開催、水害防災パンフレット配布による効果と考える。	
	指標3										あり なし		
	指標4										あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	水害に関する勉強会を開催し、多くの地域住民が参加した。また、水害に関するパンフレットを地区内に配布し、地域の水害対策への意識が向上した。												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた								
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
住民参加プロセス		水害勉強会の開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた				○		・住民の要望に応じて、防災訓練や勉強会等を開催する ・市民ニーズにあった水害等防災情報を発信する			
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
持続的なまちづくり体制の構築				都市再生整備計画に記載し、実施できた									
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

一乗寺地区(京都府京都市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
雨に強いまちづくり 目標1:調整池を整備することにより、河川の負担軽減を図り、水害からまちや人々を守る防災性の高いまちづくりを目指す。 目標2:水害対策の関連資料の配布や勉強会を行うことで、地域住民の防災意識の向上を図る。	浸水被害を受ける可能性のある家屋等の被害額 単位:百万円	1,069 H24	0 H28	0 H28
	水害への対応力が充実していると感じている人の割合 単位:%	40 H24	50 H28	58 H28
	単位:	H	H	H
	単位:	H	H	H
	単位:	H	H	H



まちの課題の変化

・当該地区において、第二太田川は人家が連担し住宅が密集しているとともに、下流部の一乗寺幹線水路や一級河川高野川の流下能力も不十分のため、河道改修による対策が困難であったが、調整池整備により河川の負担軽減が図れた。
 ・最近の局所的集中豪雨に対応するため、水害発生時などの緊急時における地域住民の防災対応力向上を図る必要があるが、地域住民への水害対策等に関するアンケートの結果において、避難所等の認知割合が上昇しており、水害への対応力の向上がみられる。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

・ハード面での対策が完了したことから、ソフト面において地域住民の防災対応力をより向上させていく必要がある。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	調整池整備事業(一乗寺公園)	345	2600m3	292	2600m3	なし	影響なし	●	
	防災倉庫整備事業(一乗寺公園)	5	1箇所	1	1箇所	なし	影響なし	●	
	備蓄倉庫整備事業(修学院第二小学校他)	4	2箇所	0	0箇所	平成27年に計画変更して削除 空き教室を活用した備蓄を行うこと となったため、新規備蓄倉庫が不 要となった。	影響なし	●	
	情報板設置事業(一乗寺公園他)	1	3基	2	2基	備蓄倉庫事業削除に伴い、各学校 への情報板設置2基を取りやめ、一 乗寺公園のものをグレードアップ し、2基設置した。	影響なし	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1. 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし	
指標1	浸水被害想定額	百万円	10年に1度の降雨強度(約50mm/h)により浸水被害を受ける可能性ある家屋等の被害額		1,069	H24	0	H28	モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定見込み ●	0	事後評価	○	
指標2	水害に対する対応力の充実度	%	当該地区の水害に対する対応力が充実していると感じている人の割合		40	H24	50	H28	モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定見込み ●	58	事後評価	○	
指標3									モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定見込み		事後評価		
指標4									モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定見込み		事後評価		
指標5									モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定見込み		事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	調整池整備事業が完了したことにより、10年に1度(約50mm/h)の降雨への浸水被害対策が完了したため。	
指標2	調整池の整備や水害勉強会の開催、地区内へ水害防災パンフレットを各戸配布することにより、地域の水害に対する対応力が向上した、充実していると感じる人の割合が増えたと考えられるため。	
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	事後評価		
その他の 数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

水害に関する勉強会を開催し、多くの地域住民が参加した。また、水害に関するパンフレットを地区内に配布し、地域の水害対策への意識が向上した。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
水害勉強会の開催	予定どおり実施した	●【実施頻度】計1回 【実施時期】平成27年度 【実施結果】計171名の住民が参加し、調整池の整備効果について理解を深めると共に、水害発生時の自衛手段、水防資材の使い方を学び、市民の水害に対する防災意識が高まった。	アンケート結果では、水害勉強会や防災訓練の実施に関し、関心が高かった。市民の意見を踏まえ、情報発信、防災訓練支援を実施する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	河川整備課, 建設企画課	平成28年12月16日	建設局土木管理部河川整備課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標○	指標○
指標名		浸水被害想定額	水害に対する対応力の充実度		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	調整池整備事業(一乗寺公園)	◎	調整池整備事業の完了により, 10年に1度(約50mm/h)の降雨への浸水対策が完了した。	◎	調整池を整備したほか, 防災倉庫の整備, 水害勉強会の開催, 水害防災パンフレットの配布を行い, 自助対策や避難に関する情報を発信することにより, 地域の水害に対する対応力が充実していると感じる人の割合が増えたと考えられる。
	防災倉庫整備事業(一乗寺公園)	—		◎	
	情報板設置事業(一乗寺公園他)	—		○	
提案事業	事業効果分析	—		—	
	水害防災パンフレット作成	—		◎	
	水害勉強会の開催	—		◎	
関連事業					

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	住民の要望に応じて, 防災訓練や勉強会等を開催するほか, 庁内で横断的に情報共有し, 市民ニーズにあった水害防災情報を発信していく。
-------	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標○			指標○			指標○			指標○		
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類									
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ー：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)			
------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	河川整備課, 建設企画課	平成28年12月16日	建設局土木管理部河川整備課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
当該地区において、第二太田川は人家が連担し住宅が密集しているとともに、下流部の一乗寺幹線水路や一級河川高野川の流下能力も不十分なため、河道改修による対策が困難となっている。	調整池整備により河川の負担軽減が図れた。		
最近の局所的集中豪雨に対応するため、水害発生時などの緊急時における地域住民の防災対応力向上を図る必要がある。	アンケートの結果から、防災マップや避難所の認知度が上昇するなど、地域住民の防災対応力が向上した。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	調整池機能の維持	浚渫など適切な維持管理に努める。	土木事務所による維持管理業務等
	地域住民の防災対応力の向上	防災訓練や勉強会等のソフト面での対策の実施。	・住民の要望に応じて、防災訓練や勉強会等を開催 ・市民ニーズにあった水害等防災情報の発信

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	浸水被害想定額	百万円	1,069	H24	0	H28	確定 ●	0	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標2	水害に対する対応力の充実度	%	40	H24	50	H28	確定 ●	58	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標3				H	H		確定			あり	→		
							見込み			なし			
指標4				H	H		確定			あり	→		
							見込み			なし			
指標5				H	H		確定			あり	→		
							見込み			なし			
その他の数値指標1				H			確定				→		
その他の数値指標2				H			確定				→		
							見込み						
その他の数値指標3				H			確定				→		
							見込み						

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成29年2月15日	平成29年2月28日まで(2週間)	担当課への 郵送, 電子メール	建設局土木管理部河 川整備課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	意見なし				
-------	------	--	--	--	--

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
京都大学大学院工学研究科 教授 戸田 圭一	平成28年12月16日	建設局土木管理部河川整備課
大阪工業大学工学部都市デザイン工学科 准教授 山口 行一	平成28年12月16日	建設局土木管理部河川整備課

有識者の意見	<ul style="list-style-type: none">・基本的な部分として、住民に水害、防災への関心を高めてもらう必要がある。また、水害のメカニズム・仕組みを理解することが重要である。・勉強会や講習会などを開催する場合は、子供にも関心を持ってもらえるようなツールの活用や教材の工夫が必要である。・新しい住民や若い人などに、第二太田川の水害の歴史などを知ってもらう機会づくりが必要である。・充実度の算出方法が複雑なので、アンケートで直接、満足度のような形で聞いても良かったのではないかと考える。・アンケート結果の市民報告用資料に、今回の取り組みや水害等に関する情報の提供場所、問い合わせ窓口等を掲載する方がよい。・今後のソフト対策としては、防災訓練や定期的な情報提供などの実施が考えられる。
--------	--

都市再生整備計画

いちじょうじ
一乗寺地区
(第2回変更)

きょうとふ きょうとし
京都府 京都市

平成29年3月

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・浸水被害の軽減 <ul style="list-style-type: none"> ○治水対策事業 <ul style="list-style-type: none"> 第二太田川に隣接する一乗寺公園の用地を有効活用し、公園の下に調整池を整備することにより、第二太田川からの溢水を軽減し、雨に強いまちを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調整池整備事業(基幹事業:地域生活基盤施設)
<ul style="list-style-type: none"> 災害発生による緊急時の対応力強化 <ul style="list-style-type: none"> ○避難所等の設備拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・一乗寺公園に情報板や防災倉庫を設置することにより、地区の緊急時の対応力の向上を図るとともに、安全・安心なまちを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報板設置事業(基幹事業:地域生活基盤施設) ・防災倉庫整備事業(基幹事業:地域生活基盤施設)
<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト対策による防災力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ○地域住民の防災意識の向上 <ul style="list-style-type: none"> 水害対策に関連する資料を地域住民に配布すること及び小学生等を対象とした水害に関する勉強会を開催することにより、地域住民の防災意識及び地区の緊急時の対応力の向上を図り、安全・安心なまちを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水害防災パンフレットの作成(提案事業:まちづくり活動推進事業) ・水害勉強会の開催(提案事業:まちづくり活動推進事業)
<p>その他</p>	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	299	交付限度額	119.6	国費率	0.400
うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	299	うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	119.6		
うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	0	うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	0		

(金額の単位は百万円)

基幹事業①社会資本整備総合交付金

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路														
公園														
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設	調整池整備事業	一乗寺公園	京都市	直	2600m ²	24	26	24	26	292	292	292	0	292
	防災倉庫整備事業	一乗寺公園	京都市	直	1箇所	26	26	26	26	1	1	1	0	1
	情報板設置事業	一乗寺公園	京都市	直	2基	27	28	27	28	2	2	2	0	2
高質空間形成施設														
高次都市施設														
中心拠点誘導施設														
生活拠点誘導施設														
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
市街地再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
耐震改修促進型														
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										295	295	295	0	295

…A'

基幹事業②地域自主戦略交付金

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路														
公園														
河川														
下水道														
合計										0	0	0	0	0

…A''

※交付期間内事業期間は平成24年度以降を記載

※H24以降を記載

※H24以降分を記載

基幹事業 総計(①+②)

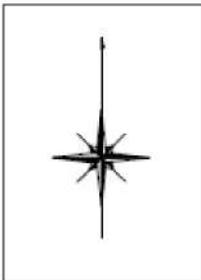
総計										295	295	0	0	295
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----	-----	---	---	-----

…A'+A''

都市再生整備計画の区域

一乗寺地区(京都府京都市)	面積 66.8 ha	区域 修学院第二学区
---------------	---------------	---------------

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



凡例

計画区域

